

・中南米でジカ熱の流行が拡大

中南米で蚊に媒介されるジカ熱の流行が拡大しています。2015 年 5 月にブラジルで最初の患者が確認されてから、流行は中南米の 22 か国に及んでいます(WHO 2016-1/28)。また、この病気に由来するとされる 2 つの重大な健康問題があります。一つは妊婦が感染した場合、新生児に小頭症という先天奇形をおこす可能性がある点です。この問題はブラジルで多く発生しており、今までに 3500 人以上の患児が確認されました(PAHO 2016-1/17)。もう一つはギランバレー症候群という神経疾患を合併する点で、中米のエルサルバドルで合併例が多くなっている模様です(WHO 2016-1/21)。

ジカ熱はデング熱と近縁のウイルスによりおこる病気で、発病直後の症状で区別することは困難です。診断はウイルスの検出や抗体検査が行われますが、日本では国立感染症研究所や一部の衛生研究所で検査が実施されています。媒介する蚊はデング熱と同じシマカ(ヤブカ)で、昼間吸血する種類です。流行地域に滞在する際には、蚊に刺されない対策を十分にとる必要があります。なお、米国CDCや英国 NaTHNAc(渡航医学情報サービス)は妊婦が流行地域に滞在するのを控えるように勧告しています(米国 CDC 2016-1/19, 英国 NaTHNAc 2016-1/19)。また、1 月 20 日に日本の国立感染症研究所も同様の勧告を発表しました。ブラジルでは今年の 8 月にオリンピックが開催されるため、試合の観戦で渡航する人にも注意喚起が必要です。

<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10906000-Kenkoukyoku-Kekkakukansenshouka/0000109917.pdf>

・中国での鳥インフルエンザ患者の発生

中国では毎年冬季に沿岸部で鳥インフルエンザA(H7N9)型の患者発生がみられています。今年も 1 月になり浙江省や広東省で 10 人の患者が確認されました(WHO 2016-1/10)。全ての患者は発病前に生きた家禽との接触があった模様です。2 月は春節で多くの人移動するため、患者数がさらに増える可能性があります。

なお、中国では A(H5N6)型の鳥インフルエンザの患者も散発しており、最近 1 か月間に広東省などで 5 人の患者が確認されました(WHO 2016-1/21)。患者は全員が重症の肺炎をおこしており、3 人が死亡しています。このウイルスも家禽からの感染によるものとみられています。

・シンガポールでデング熱患者が増加傾向

シンガポールでは昨年のデング熱患者数が 1 万人と例年よりも少ない数でした。しかし 12 月からの雨季到来とともに患者数が増加しており、この傾向は 1 月も続いています(WHO 西太平洋 2016-1/13)。シンガポールでは国内各地で建設工事が盛んに行われていますが、工事現場周辺はデング熱に感染するリスクが高くなるため、とくに注意が必要です。

#### ・デング熱ワクチンの承認国が広がる

前号でサノフィ社が製造しているデング熱ワクチン(Dengvaxia)がメキシコで承認されたことを報告しましたが、その後、このワクチンはフィリピンやブラジルでも承認されました。これらの国で実際に接種できるようになるまでには、まだ時間がかかりそうです。

#### ・タイで MERS 患者が発生

タイのバンコクで1月中旬に同国で2例目となるMERS(中東呼吸器症候群)の患者が発生しました(WHO 東南アジア 2016-1/24)。この患者は中東・オマーンから入国した71歳の男性で、この患者以外には拡大していない模様です。中東のオマーン、サウジアラビア、UAEでは1月もMERS患者の発生が続いており(WHO 2016-1/4, 7, 26)、こうした国々に滞在する際には感染源となるラクダに近づかないように注意が必要です。

#### ・西アフリカの Ebola 熱～終息と再燃

西アフリカのギニアでは2013年の年末よりEbola熱の流行がみられていたましたが、WHOは2015年12月29日に流行が終息したことを宣言しました(WHO 2015-12/29)。これを受けて、厚生労働省では、それまで検疫所で行っていたギニアから入国する者に対する健康監視を中止することを発表しました。一方、隣国のシエラレオネではEbola熱の終息宣言が2015年11月に出されていましたが、1月中旬に患者1名が発生しました(WHO 2016-1/15)。現在、接触者の健康監視が行われています。

#### ・モザンビークでマラリアの流行が拡大

アフリカ南部のモザンビークでマラリアの拡大が報告されています。同国北西部のTeteでは2015年に37万人のマラリア患者が発生し200人以上が死亡しました(ProMED 2016-1/11)。患者数は2014年の10倍以上になっています。モザンビークには日本の企業や国際協力団体からの派遣者が数多く滞在していますが、滞在中はマラリアの予防内服も含めて十分な対策をとる必要があります。